

会派名

志翔会

支出調書


代表者	経理責任者	起案者
		

区分	事由	費目金額						小計
1	調査研究費	行政調査（青森市、二戸市、遠野市）に係る旅費	交通費		旅費	290,470	自動車燃料費	290,470
			資料作成費		調査委託費		振込料	
2	研修費		会場費		講師謝金		出席者負担金・会費	
			交通費		旅費		自動車燃料費	
			資料作成費		食糧費		振込料	
3	広報費		会場費		交通費		自動車燃料費	
			資料作成費		広報誌（紙）		報告書等印刷費	
			送料（折込料含む）		ウェブページ掲載代		茶菓子代	
			振込料					
4	広聴費		会場費		交通費		自動車燃料費	
			資料作成費		茶菓子代		振込料	
5	要請・陳情活動費		交通費		旅費		自動車燃料費	
			資料作成費		振込料			
6	会議費		会場費		交通費		自動車燃料費	
			資料作成費		振込料			
7	資料作成費		印刷製本費		翻訳料		筆耕料	
			振込料					
8	資料購入費		法規追録代		参考図書代		新聞（日刊紙）購読料	
			雑誌等購読料		有料データベース等利用料		振込料	
9	人件費		賃金		社会保険料等		振込料	
10	事務所費		備品購入費		事務機器等リース代		消耗品等事務費	
			印刷代		振込料		配送手数料	
11	通信運搬・自動車燃料費		電話料等（按分）		郵便料等		自動車燃料費（按分）	
			その他					
使用者	山口信雄 	支出年月日	平成30年6月28日		現金出納簿 支出番号	 10	合計	290,470 円

出張（調査等）申請書兼旅費請求書

支出番号  10

会派会長様

申請代表者氏名 山口 信雄 

下記の用務により出張（調査等）したいので申請するとともに、旅費を請求いたします。

記

請求金額	290,470円（1人あたり 77,730円 森合秀行議員のみ 57,280円） ※別紙、旅費計算書のとおり	
目的	行政調査	
用務先	① 青森市 ② 二戸市 ③ 遠野市	
内容	① 議会の取組みについて ② 宝探しからの持続可能なまちづくりについて、宝を活かしたまちづくり推進事業について ③ 地域おこし協力隊の取組みについて、遠野型ふるさとテレワーク推進事業について	
期間	平成30年 7月 4日 ～ 平成30年 7月 6日（2泊 3日）	
行程	別紙のとおり	
出張（調査等）者氏名	・（代表者）山口信雄	・
	・高橋隆夫	・
	・佐藤栄作	・
	・森合秀行	・
	・	・
特記事項	森合秀行議員のみ、青森市、二戸市の一泊二日の行政調査となります。	


上記のとおり出張（調査等）を許可します。

会派会長	経理責任者	受理日	平成30年6月28日
		許可日	平成30年6月28日
		支出日	平成30年6月28日

上記金額を受領しました。

平成30年6月28日

申請代表者氏名

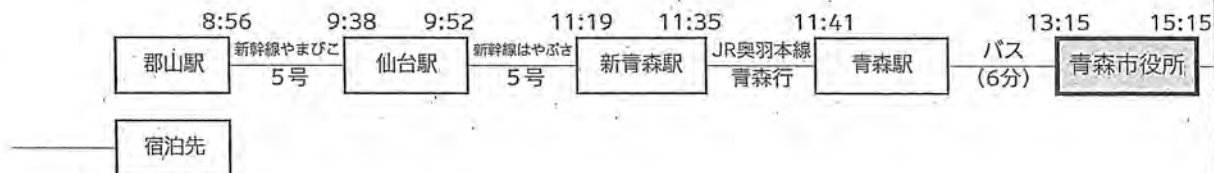
山口 信雄 

# 平成30年度 志翔会行政調査行程表

## 1 行程

□1日目：平成30年7月4日（水）

青森市：議会の取組みについて

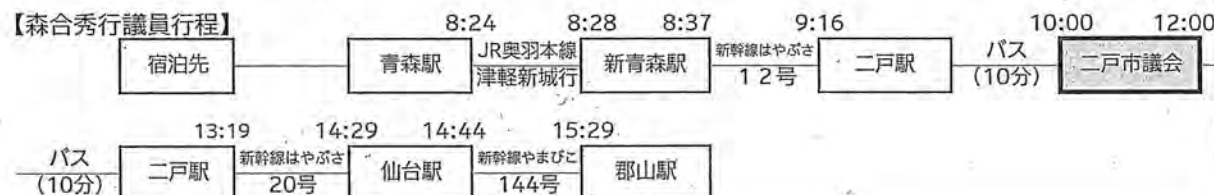


□2日目：平成30年7月5日（木）

二戸市：宝探しからの持続可能なまちづくりについて  
宝を活かしたまちづくり推進事業について

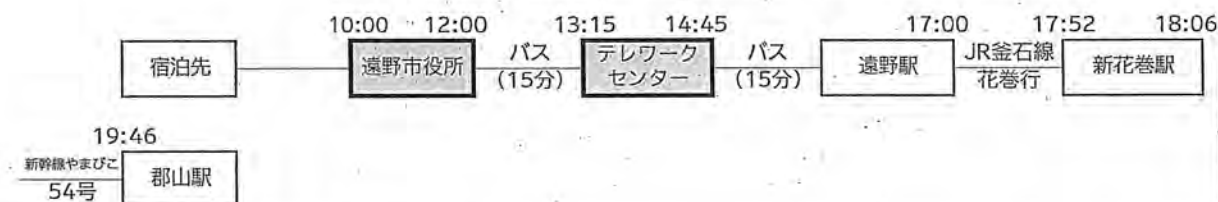


### 【森合秀行議員行程】



□3日目：平成30年7月6日（金）

遠野市：地域おこし協力隊の取組み  
(ローカルベンチャー事業) について  
遠野型ふるさとテレワーク推進事業について



## 2 調査者 4名

高橋 隆夫 議員  
山口 信雄 議員  
佐藤 栄作 議員  
森合 秀行 議員

## 3 調査項目

- (1) 平成30年7月4日（水） 13:15~15:15  
青森市役所  
・議会の取組みについて
- (2) 平成30年7月5日（木） 10:00~12:00  
二戸市役所  
・宝探しからの持続可能なまちづくりについて  
・宝を活かしたまちづくり推進事業について
- (3) 平成30年7月6日（金） 10:00~12:00、13:15~14:45  
遠野市役所  
・地域おこし協力隊の取組み（ローカルベンチャー事業）について  
・遠野みらい創りカレッジテレワークセンター  
・遠野型ふるさとテレワーク推進事業について

## 4 連絡先

- 青森市議会事務局（担当：カマタ様）  
〒030-8555青森県青森市中央一丁目22-5  
TEL 017-734-5743 FAX 017-734-5824
- 二戸市議会事務局（担当：スガワラ様）  
〒028-6192 岩手県二戸市福岡字川又47  
TEL 0195-23-1685 FAX 0195-23-1633
- 遠野市議会事務局（担当：サトウ様）  
〒028-0592岩手県遠野市中央通り9番1号  
TEL 0198-66-3021 FAX 0198-66-3021

## 5 その他

森合秀行議員は、二戸市視察後に郡山へ戻り。

# 行政調査旅費計算書

会 派 名 : 志翔会

参加議員 : 高橋隆夫議員、山口信雄議員、佐藤栄作議員

日 程 : 平成30年7月4日(水) - 6日(金)

行 先 : 青森市役所(青森県青森市中央一丁目22-5)

二戸市役所(岩手県二戸市福岡字川又47)

遠野市役所(岩手県遠野市中央通り9番1号)

遠野みらい創りカレッジテレワークセンター(岩手県遠野市土淵町土淵4-21-6)

7月4日	郡 山 駅	仙 台 駅	新 青 森 駅	青 森 駅					
	(新幹線) 125.1	(新幹線) 361.9	3.9						
運賃	7,880								7,880
急行料金	4,960								4,960
グリーン	4,110								4,110
実費									0

7月5日	青 森 駅	新 青 森 駅	二 戸 駅	盛 岡 駅	新 花 巻 駅	遠 野 駅			
	3.9	(新幹線) 112.7	(新幹線) 65.7	(新幹線) 35.3	39.6				
運賃	7,880				760				
急行料金	3,110		3,110					6,220	
グリーン									0
実費									0

7月6日	遠 野 駅	新 花 巻 駅	郡 山 駅						
	39.6	(新幹線) 273.3							
運賃	760	※							760
急行料金	3,470								3,470
グリーン	3,090								3,090
実費									0

※前日の青森駅-新花巻間の乗車券を引き続き使用。

交通費	39,130		39,130
日当	3,000 ×	3日 =	9,000
宿泊費	14,800 ×	2泊 =	29,600
合計			77,730 円

× 3名 = 233,190 円

# 行政調査旅費計算書

会 派 名 : 志翔会  
 参加議員 : 森合秀行議員  
 日 程 : 平成30年7月4日(水) - 5日(木)  
 行 先 : 青森市役所(青森県青森市中央一丁目22-5)  
           二戸市役所(岩手県二戸市福岡字川又47)

7月4日	郡 山 駅	(新幹線) 125.1	仙 台 駅	(新幹線) 361.9	新 青 森 駅	3.9	青 森 駅												
運賃	7,880																		7,880
急行料金	4,960																		4,960
グリーン	4,110																		4,110
実費																			0

7月5日	青 森 駅	3.9	新 青 森 駅	(新幹線) 112.7	二 戸 駅	(新幹線) 249.2	仙 台 駅	(新幹線) 125.1	郡 山 駅											
運賃	7,880																		7,880	
急行料金	3,110																		4,430	7,540
グリーン																			4,110	4,110
実費																			0	

運賃																			0
急行料金																			0
グリーン																			0
実費																			0

交通費	36,480		36,480
日 当	3,000 ×	2日 =	6,000
宿泊費	14,800 ×	1泊 =	14,800
合 計			57,280 円

× 1名 = 57,280 円





出張（調査等）報告書兼旅費精算書

支出番号 10

会 派 会 長 様

下記のとおり出張（調査等）したので報告するとともに、受領した旅費を精算（返納）いたします。



出張（調査等）議員名

・山口信雄		・	①
・高橋隆夫		・	①
・佐藤栄作		・	①
・森合秀行		・	①
・	①	・	①
・	①	・	①

記

期 間	平成30年7月4日 ～ 平成30年7月6日（2泊3日）					
目 的	行政調査					
用 務 先	① 青森市役所					
	② 二戸市役所					
	③ 遠野市役所・遠野みらい創りカレッジテレワークセンター					
行 程	別紙行程表のとおり					
内容及び成果	① 議会の取組みについて②宝探しからの持続可能なまちづくりについて③地域おこし協力隊の取組みについて、遠野型ふるさとテレワーク推進事業について					
旅 費 精 算	受領額	290,470 円	精算額	290,470 円	返納額	0 円

上記のとおり出張（調査等）の内容を確認するとともに、精算を受けました。

会 派 会 長	経 理 責 任 者		受 理 日	平成30年7月9日
			確 認 日	平成30年7月9日
			精 算 日	平成30年7月9日

# 平成30年度 志翔会行政調査行程表

## 1 行程

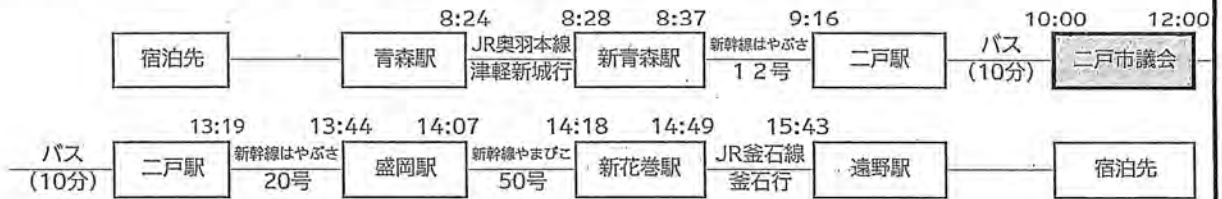
□ 1日目：平成30年7月4日（水）

青森市：議会の取組みについて

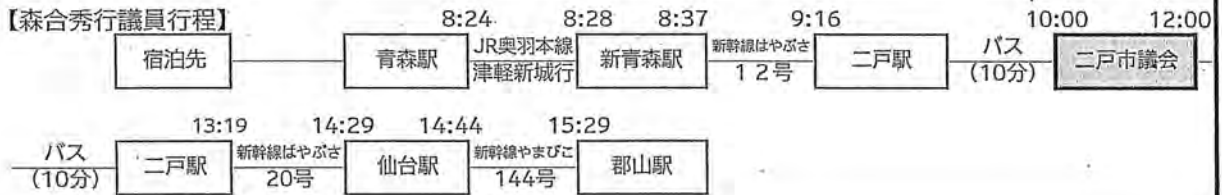


□ 2日目：平成30年7月5日（木）

二戸市：宝探しからの持続可能なまちづくりについて  
宝を活かしたまちづくり推進事業について

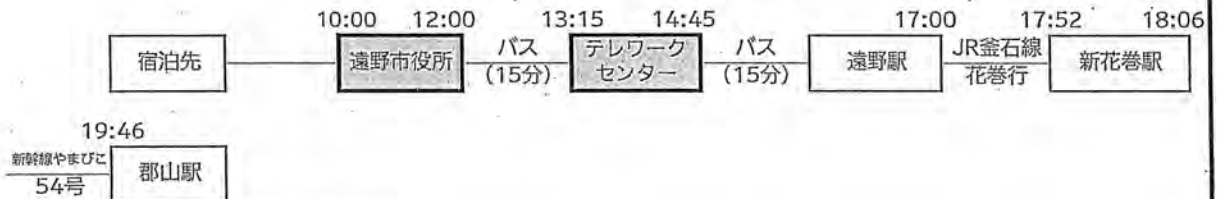


【森合秀行議員行程】



□ 3日目：平成30年7月6日（金）

遠野市：地域おこし協力隊の取組み  
（ローカルベンチャー事業）について  
遠野型ふるさとテレワーク推進事業について



2 調査者 4名

高橋 隆夫 議員  
山口 信雄 議員  
佐藤 栄作 議員  
森合 秀行 議員

3 調査項目

- (1) 平成30年7月4日（水） 13:15～15:15  
青森市役所  
・議会の取組みについて
- (2) 平成30年7月5日（木） 10:00～12:00  
二戸市役所  
・宝探しからの持続可能なまちづくりについて  
・宝を活かしたまちづくり推進事業について
- (3) 平成30年7月6日（金） 10:00～12:00、13:15～14:45  
遠野市役所  
・地域おこし協力隊の取組み（ローカルベンチャー事業）について  
・遠野みらい創りカレッジテレワークセンター  
・遠野型ふるさとテレワーク推進事業について

4 連絡先

- 青森市議会事務局（担当：カマタ様）  
〒030-8555青森県青森市中央一丁目22-5  
TEL 017-734-5743 FAX 017-734-5824
- 二戸市議会事務局（担当：スガワラ様）  
〒028-6192 岩手県二戸市福岡字川又47  
TEL 0195-23-1685 FAX 0195-23-1633
- 遠野市議会事務局（担当：サトウ様）  
〒028-0592岩手県遠野市中央通り9番1号  
TEL 0198-66-3021 FAX 0198-66-3021

5 その他

森合秀行議員は、二戸市視察後に郡山へ戻り。

# 行政調査旅費計算書

会 派 名 : 志翔会

参加議員 : 高橋隆夫議員、山口信雄議員、佐藤栄作議員

日 程 : 平成30年7月4日(水) - 6日(金)

行 先 : 青森市役所(青森県青森市中央一丁目22-5)

二戸市役所(岩手県二戸市福岡字川又47)

遠野市役所(岩手県遠野市中央通り9番1号)

遠野みらい創りカレッジテレワークセンター(岩手県遠野市土淵町土淵4-21-6)

7月4日	郡山	仙台	新青森	青森					
	(新幹線) 125.1	(新幹線) 361.9	3.9						
運賃	7,880								7,880
急行料金	4,960								4,960
グリーン	4,110								4,110
実費									0

7月5日	青森	新青森	二戸	盛岡	新花巻	遠野				
	3.9	(新幹線) 112.7	(新幹線) 65.7	(新幹線) 35.3	39.6					
運賃	7,880					760				8,640
急行料金	3,110		3,110						6,220	
グリーン									0	
実費									0	

7月6日	遠野	新花巻	郡山						
	39.6	(新幹線) 273.3							
運賃	760	※							760
急行料金	3,470								3,470
グリーン	3,090								3,090
実費									0

※前日の青森駅-新花巻間の乗車券を引き続き使用。

交通費	39,130		39,130
日当	3,000 ×	3日 =	9,000
宿泊費	14,800 ×	2泊 =	29,600
合計			77,730 円

× 3名 = 233,190 円



# 行政調査旅費計算書

会派名：志翔会  
 参加議員：森合秀行議員  
 日程：平成30年7月4日(水) - 5日(木)  
 行先：青森市役所(青森県青森市中央一丁目22-5)  
       二戸市役所(岩手県二戸市福岡字川又47)

7月4日	郡	仙	新	青					
	山	台	青	森					
	(新幹線)	(新幹線)							
	125.1	361.9	3.9						
	駅	駅	駅	駅					
運賃	7,880								7,880
急行料金	4,960								4,960
グリーン	4,110								4,110
実費									0

7月5日	青	新	二	仙	郡					
	森	青	戸	台	山					
		(新幹線)	(新幹線)	(新幹線)						
	3.9	112.7	249.2	125.1						
	駅	駅	駅	駅	駅					
運賃	7,880								7,880	
急行料金	3,110								4,430	7,540
グリーン									4,110	4,110
実費									0	

運賃									0
急行料金									0
グリーン									0
実費									0

交通費	36,480		36,480	
日当	3,000 ×	2日 =	6,000	
宿泊費	14,800 ×	1泊 =	14,800	
合計			57,280 円	× 1名 = 57,280 円

志翔会行政調査報告書  
青森市議会の議会改革について

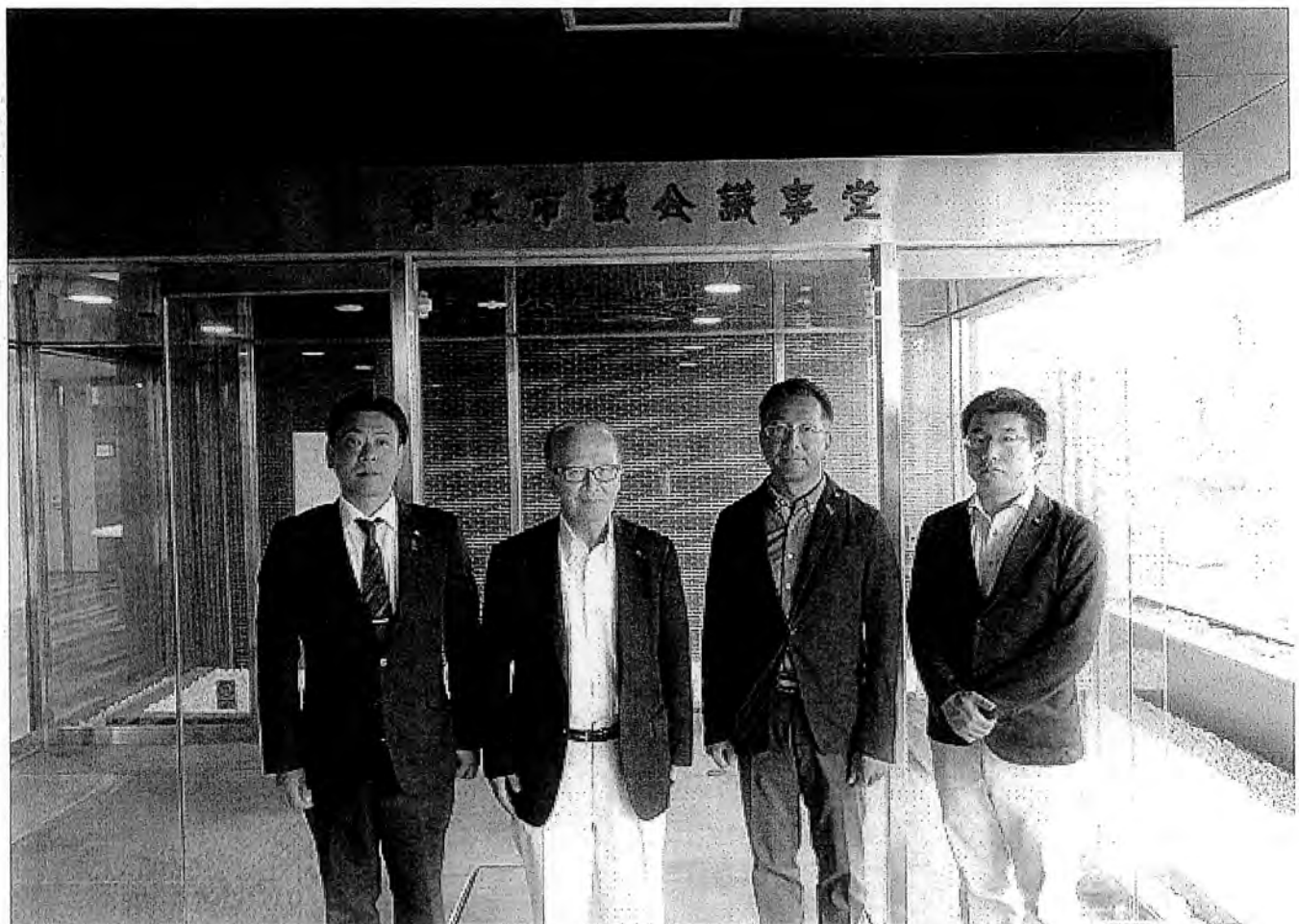
実施日：平成 30 年 7 月 4 日（水）

青森市議会の議会改革について、青森市役所内にある市議会の委員会室において行われた。最初に、青森市議会の議会事務局長より歓迎の挨拶を頂いた後、議会事務局担当職員の方から調査項目の説明をしていただいた。

調査項目については、最初に青森市議会要覧をつかって議会活性化の取組み状況について説明していただいた。青森市議会の特徴としては、本市との先進的な違いは 3 点あった。1 点目は、一般質問について平成 24 年から質問・答弁含めて 60 分の一問一答形式を導入しているとのことであった。ただ、一問一答とはいっても最初の質問は壇上で行い、その後自席より一問一答でやりとりをするようで、実際は、本市の今のやり方に似ているが、本市でいう再々質問までの制限がないような形でのやり方でのようだった。現在、青森市議会では、ほぼ 95%以上の議員が一問一答形式を選択して一般質問をしているようだった。2 点目は、平成 23 年から議会報告会を年に 2 回程度実施している点であった。ただ、こちらについては最近の議会報告会を実施している自治体同様、参加人数の減少、参加者の固定化などの問題があるようで、最近の実施状況としては、ワールドカフェ形式の導入など開催形式を色々と工夫しているような感じがした。3 点目は、平成 28 年からタブレット端末を導入してペーパーレス議会を導入しているとのことであった。タブレット端末の導入により資料の印刷費が大きく削減されたとのことであった。以上の 3 点が議会改革の取組み状況の解説の中からみた本市議会との違いであった。

次に議会運営上の違いとしては、青森市議会では、定例会ごとに 20 名～25 名の決算特別委員会が設置され予算議案はこちらで審議されており、通常の常任委員会は、予算措置がない条例議案などを審議しているとのことだった。本市議会のような常任委員会を中心とした運営のされ方とは違って、非常に新鮮さを感じた。予算特別委員会による予算議案の審議のやり方だと普段の予算特別委員会において会派ごとの人数比に応じて総括質疑の時間が配分されており、9 月の決算特別委員会の時の総括質疑も本市での形式的な総括質疑に比べ非常に有意義なものになるのではないかと感じた。また、特別委員会が青森市の抱える問題の解決のために継続して常設化している所も特徴的であった。

議会改革では、本市が議会改革で取り組みたい内容を一步先取りしている点、議会運営では、予算特別委員会を設置し審議を行っている点などが本市議会の現在のあり方を振り返ることができるなど学ぶことが多かった。本市でも現在、議会改革検討特別委員会が設置され議会力の向上の為に様々な提言がなされているが、今回の青森市議会の議会改革で学んだ内容をぜひ特別委員会での議論においても役立てていきたいと思った。



青森市議会事務局

事務局長 木 浪 龍 太

〒030-8555 青森市中央一丁目22番5号  
TEL 017-734-5732  
FAX 017-734-5824

E-mail

青森市議会事務局 議事調査課

課 長 菊 池 朋 康

〒030-8555 青森市中央一丁目22番5号  
電 話 017(734)1111(内線6120)  
ダイヤルイン 017(734)5742  
F A X 017(734)5824  
E-mail:

青森市議会事務局議事調査課

議事調査チームリーダー

副参事 横 内 英 雄

〒030-8555 青森市中央一丁目22番5号  
TEL (017) 734-1111(内線6123)  
直通 (017) 734-5743  
FAX (017) 734-5824

E-mail

# 特別委員会の設置及び所管事項

(平成17年4月14日以降)

議会事務局議事調査課

# ■青森市議会要覧■

平成30年度（4月）版

行政視察用資料

### 3 議会活性化への取り組み状況

- 平成 17 年第 1 回定例会から、青森市議会ホームページで、インターネットによる本会議の生中継の配信を開始。
- 平成 18 年度から、事務局の機構を再編。(課を廃止、チーム制へ移行)
- 平成 19 年度から、点字版及びテープ版の市議会だよりを発行。
- 平成 19 年第 3 回定例会から、予算及び決算の審査について、予算特別委員会、決算特別委員会をそれぞれ設置し、審査を行う。
- 平成 20 年第 2 回定例会から、青森市議会ホームページで、インターネットによる本会議の録画映像の配信を開始。
- 平成 21 年度から、事務局の機構を再編。(総務課・議事調査課を設置)
- 平成 22 年 12 月に、議長の諮問機関として議会基本条例検討委員会を設置し、平成 24 年度中の条例制定を目指し検討を開始。
- 平成 23 年度から、市議会だよりを増ページ(8p→12p)するとともに、カラー化(表紙・裏面:フルカラー、中面:2色刷り)し発行。
- 平成 23 年第 1 回定例会から市議会だよりで会派ごとの賛否を公表。
- 平成 23 年第 3 回定例会から、ホームページで議員ごとの賛否を公表。
- 平成 23 年 10 月に、第 1 回青森市議会議会報告会を開催。
- 平成 24 年第 1 回定例会から、一般質問に一問一答方式を導入。
- 平成 24 年 4 月に、第 2 回青森市議会議会報告会を開催。
- 平成 24 年 11 月に、第 3 回青森市議会議会報告会を開催。
- 平成 25 年 2 月に、青森市議会基本条例を制定。
- 平成 25 年 5 月から、CD 版(デジター図書)の市議会だよりを発行。
- 平成 25 年 7 月から、政務活動費の収支報告書を青森市議会ホームページで公開するとともに、議会事務局における収支報告書等の閲覧を開始。
- 平成 25 年 5 月に、平成 25 年第 1 回青森市議会議会報告会を開催。

## 二戸市行政調査報告書

平成30年 7月 5日(木) 訪問

### 「宝探しからの持続可能なまちづくりについて」

#### 「宝を生かしたまちづくり推進事業について」

今回二戸市を行政調査するきっかけは「地域の誇りで飯を食う！」という一冊の本を勧められ、その内容に感銘を受けたからである。現在全国の多くの市町村において「人もいない、若者も少ない、子どもも少ない、そしてお金もない」という「ないない尽くし」の状況の中で自らの地域をどのように活性化させていくのかという難しい問題に直面している。この本はこの問題に正面から果敢に取り組み始めた二戸市の物語である。二戸市では「市長と60人の仲間たち」が地域おこしを開始し、その活動を「宝探し」と命名して市民を巻き込み市長三代にわたり現在25年以上も活動を続けている。そこで郡山市においても同様の取り組みができないのか考え、本日の行政調査の運びとなった。

最初に二戸市議会副議長の新畑鉄男様より歓迎の御挨拶を頂き総務政策部政策推進課の工藤善康主査様の説明から行政調査を開始した。二戸市は岩手県の北西部に位置し、生漆生産量が全体の74.8%を占めている生漆日本一の市で、人口は27000人余りである。

平成4年当時初当選を果たした小原市長が「楽しく美しいまちづくり」を宣言し、二戸市を9地区として楽しく美しいまちづくり地区懇談会をそれぞれ開催した。そして市民30名と市職員29名で構成される楽しく美しいまちづくり推進委員会が結成され、市内9000世帯にそれぞれの地区における固有の市の宝を発見するための記述式アンケート調査を実施した。その結果、7371件の回答が寄せられ、市内9地区10ゾーンの地域振興をテーマに以下6分類に仕分けされた。

- ・自然の宝⇒共に生きる仲間さがし（気象、山、川、風景、湧水、動植物、化石等）
- ・生活環境の宝⇒生きるための知恵（料理、織物、郷土食材、地域信仰等）
- ・歴史文化の宝⇒先人の足跡をたどる（文化財、歴史街道、年中行事、祭等）
- ・産業の宝⇒外部世界への発信（伝統技術、工芸品、特産品、食材等）
- ・名人の宝⇒二戸の知恵袋（芸能、郷土史、工芸、郷土料理、民話等）
- ・要望の宝⇒未来へのエネルギー（課題解決へ向けた創造、宝の活用等）



これらの6分類に整理し214件にまとめられ「宝探し」から「地域づくり」への5段階として次のステップを踏むことになる。

- ① 宝を探す⇒「地域固有の自然、歴史、文化、産業、人などの資源を地域住民自身が発掘・再発見する」

一言で述べれば、「地域の誇り探し」である。この作業の狙いは、住民自身による宝を探す活動を通じて、一人ひとりの住民が「自分にとって大切なもの」「自慢できるもの」「残したいもの」「伝えたいもの」等を発見あるいは再発見して、自分と地域との繋がりを改めて感じる事である。そしてそれを自分だけでなく、周りの住民と共通のものとして認め合い、誇りを一緒に分かち合っていく作業ともいえる。

- ② 宝を磨く⇒「発掘・再発見された宝を保存・伝承・発展させるための活動。」

発見あるいは再発見された宝の中には手入れの状態が悪く壊れていたり、あるいはどこにあるのか分かりにくかったり、すぐに活用が困難な場合が多かった。このためその宝を今後生かすために、宝を分かりやすくし、修復したりする「宝を磨く」という作業過程が必要である。具体的には地域の人々の間で宝をどう活用し、どう楽しむか、あるいはどう保全、修復、復元するかという事。住民が知恵を出し合いながら試行錯誤を重ね、よりわかりやすく、その宝が最も生き生きしていた元の姿や魅力を引き出し再現する活動を通じて、宝の価値を認識していく段階である。

- ③ 宝を誇る⇒「宝の価値を認識し、地域の中で価値認識を共有するための活動。」

具体的には宝を集めて解説した「冊子」や、宝の場所を住民が知ることが出来る「マップ」や、あるいは宝について学ぶための「宝講座」や、宝をめぐる宝ツアー等、地域住民が地域の価値を知る機会づくり等である。「宝を誇る」とは「磨く」段階において獲得された宝の地域固有の価値と普遍的価値の認識と、その上に導入された外部の視点からより普遍的な価値を確認する作業を通じて、その認識を地域全体で共有していく作業である。「誇り」を持つことは、誇りえる地域を作っていく行動へ人々を突き動かし、それが地域おこしのモチベーションになり、誇りえる地域へと変身していく手応えと実感に繋がるのである。

- ④ 宝を伝える⇒「地域の外に向かって、宝の魅力を情報発信していくための活

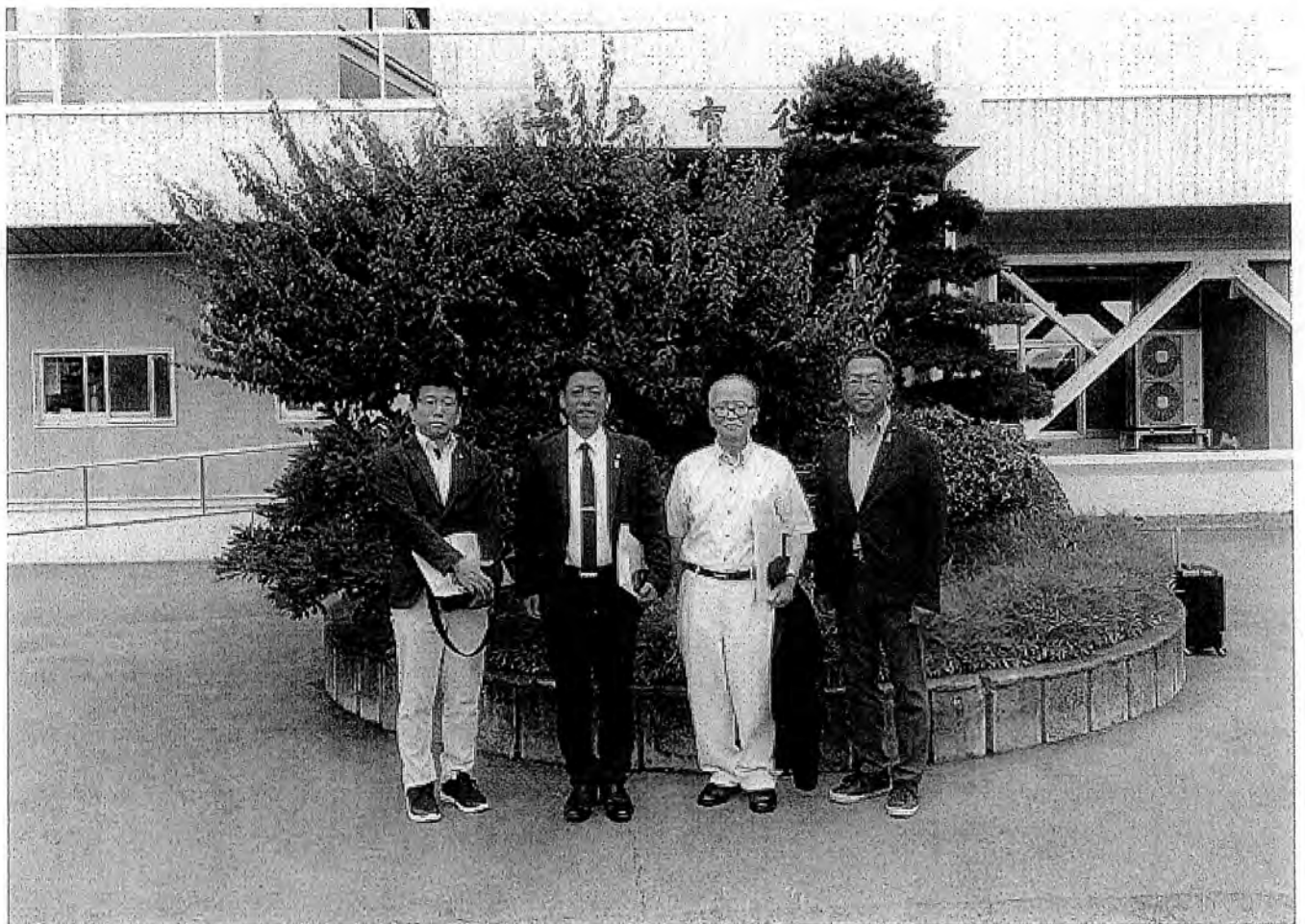
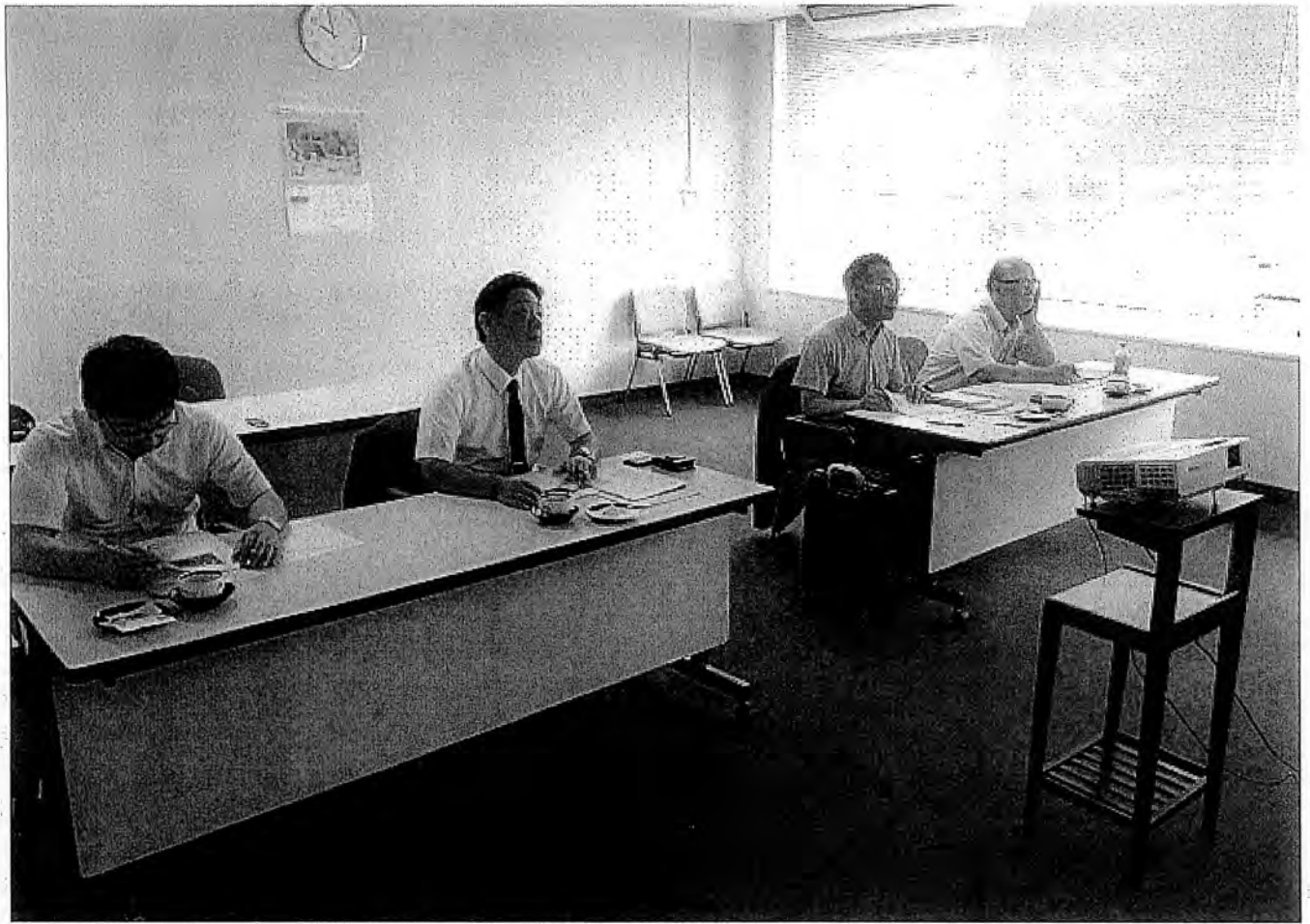
動。」

外部との交流を通じて共感してくれる仲間を拡大する仕組み作りが、「伝える」段階の作業である。地域の宝の価値をさまざまな交流活動を通じて外部に情報発信し、知ってもらふ事が共感の基礎となる。交流を通じて共有から共感へと発展させることがこの段階の目的である。具体的には、イベント事業をはじめ、エコツアー、自然観察会、ワークショップ、農作業体験、山村留学等さまざまな形があげられる。地域外の人々への「共感」の拡大作業である「宝伝え」はお宝の誇りを外部の人が感激する姿を見て「やっぱりうちの宝の価値は、人々にこんなに喜んでもらえる凄いものなのだ！」という確信に変えていくきっかけとなる。

⑤ 宝を興す⇒「宝を活用して産業に結びつけるための活動。」

観光によるまちづくりの大事なことは、その地域に来ることが出来ない人や地域を知らない人に、「どのようにしてその地域に行きたくなってもらうのか」という仕掛けづくりである。地域の誇りに裏打ちされたお宝を活用し、その地域を訪ねられない人にも地域の魅力を自慢し、誇ることでできる「地域固有のブランド商品開発」がこれに当たる。開発され、経済活動を通じて全国に流通していく「ブランド商品」は言うなれば地域の人々に代わってその魅力を伝える「観光大使」である。別の言い方をすれば、発見されたお宝をベースとした新商品を経済的な事業活動へと結びつけ、そのことによって外部の人を引き付ける仕掛けづくりが「宝興し」の段階と言える。

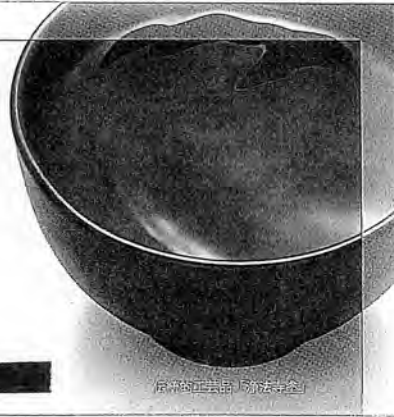
平成4年から24年までの20年間をかけて、この5段階のステップを踏みながら二戸市の地域おこしを行ってきたが、道のりは簡単ではなかった。同じことを長く続けているとマンネリ化していくことや「首長の交代による活動の中止」等の課題に直面するたびに活動に新しい工夫を凝らしてきた。しかし、現在は地域おこしに取り組んできた世代も歳を取ってきており、若い世代が今後どのように関わっていくか、これも非常に悩ましい問題であるが、これまで同様に粘り強く解決して前に進んでいくことを期待する。そして我々郡山市においても、「宝探し」から「宝興し」に至るプロセスを市民の皆様と共に進めていかなければ、観光によるまちづくりの発展は見込めないだろう。



岩手県二戸市  
議会事務局  
事務局長

まい さわ ゆき ひこ  
米澤 幸彦

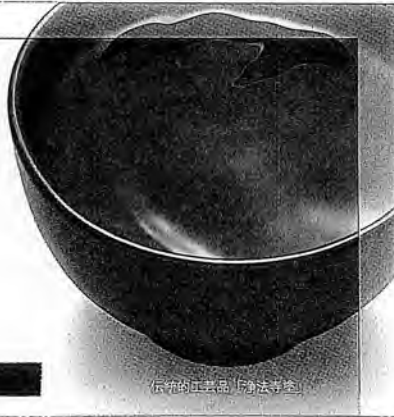
〒028-6192  
岩手県二戸市福岡字川又47  
TEL. 0195-23-1685(直通)  
FAX. 0195-23-1633  
E-mail: [REDACTED]



岩手県二戸市  
総務政策部  
副部長兼政策推進課長

小野 昭徳  
Ono Akinori

〒028-6192  
岩手県二戸市福岡字川又47  
TEL. 0195-23-3111(内線 311)  
FAX. 0195-25-5160  
E-mail: [REDACTED]



Ninohe City

総務政策部 政策推進課

副主幹兼ふるさと支援係長  
たかやま ひでと  
高山 英人

〒028-6192  
岩手県二戸市福岡字川又 47  
TEL 0195-23-3112  
FAX 0195-25-5160  
Mail: [REDACTED]



二戸市総務政策部  
政策推進課

主査 工 藤 善 康

Kudou

Yoshinori

〒028-6192 岩手県二戸市福岡字川又47番地  
TEL 0195-23-3111  
FAX 0195-25-5160  
E-mail: [REDACTED]

郡山市議会志翔会行政視察一行様

## 宝を生かしたまちづくり



二戸市総務政策部政策推進課

平成30年7月4日

## 岩手県二戸市の概要

- 人口 27,336人 (H30.4.30現在)      面積 420km<sup>2</sup>
- 林野率67.1%の中山間地域
- 平成14年東北新幹線二戸駅開業
- 平成18年二戸市と浄法寺町が合併
- 生漆生産量 日本一 (74.8%)
- 観光地 金田一温泉  
天台寺、九戸城、馬仙峡

820kg (25kg)  
1172kg (180kg)



■アクセス  
東北新幹線  
東京 ⇄ 二戸 約2時間45分  
東北自動車道  
東京 ⇄ 浄法寺IC 約610km

## 報告書

### 遠野市：地域おこし協力隊の取組み（ローカルベンチャー事業）について

遠野市では、第2次遠野市総合計画基本理念（平成28～37年度）として、永遠の日本のふるさと遠野を将来像に掲げ、

大綱1－自然を愛し共生するまちづくり

大綱2－健やかに人が輝くまちづくり

大綱3－活力を創意で築くまちづくり

大綱4－ふるさとの文化をまちづくり

大綱5－みんなで考え支え合うまちづくり

5つの大綱を定めて、共通優先方針として、1、産業振興・雇用確保2、少子化・子育て支援とし、・地域の特性や資源を活かすこと・自分たちのまちをよりよくしようと行動すること・市民が主体性をもつことを基本理念としている。

遠野市における人口減少社会の現状と課題としては、現在までの過去60年間で約2万人減少。今後30年で1万人減少の見込み。高校卒業を機に人口が市外へ流出。高等教育機関が不在とのことで、人口減少に伴う影響として、・高齢化による社会保障関係費の増加と子育て世代の減少による市内消費額の縮小・市内経済規模の縮小によって税収等の落ち込み、住民一人当たりの行政コストが拡大・人材不足による農村文化の衰退と危機感を募らせている。

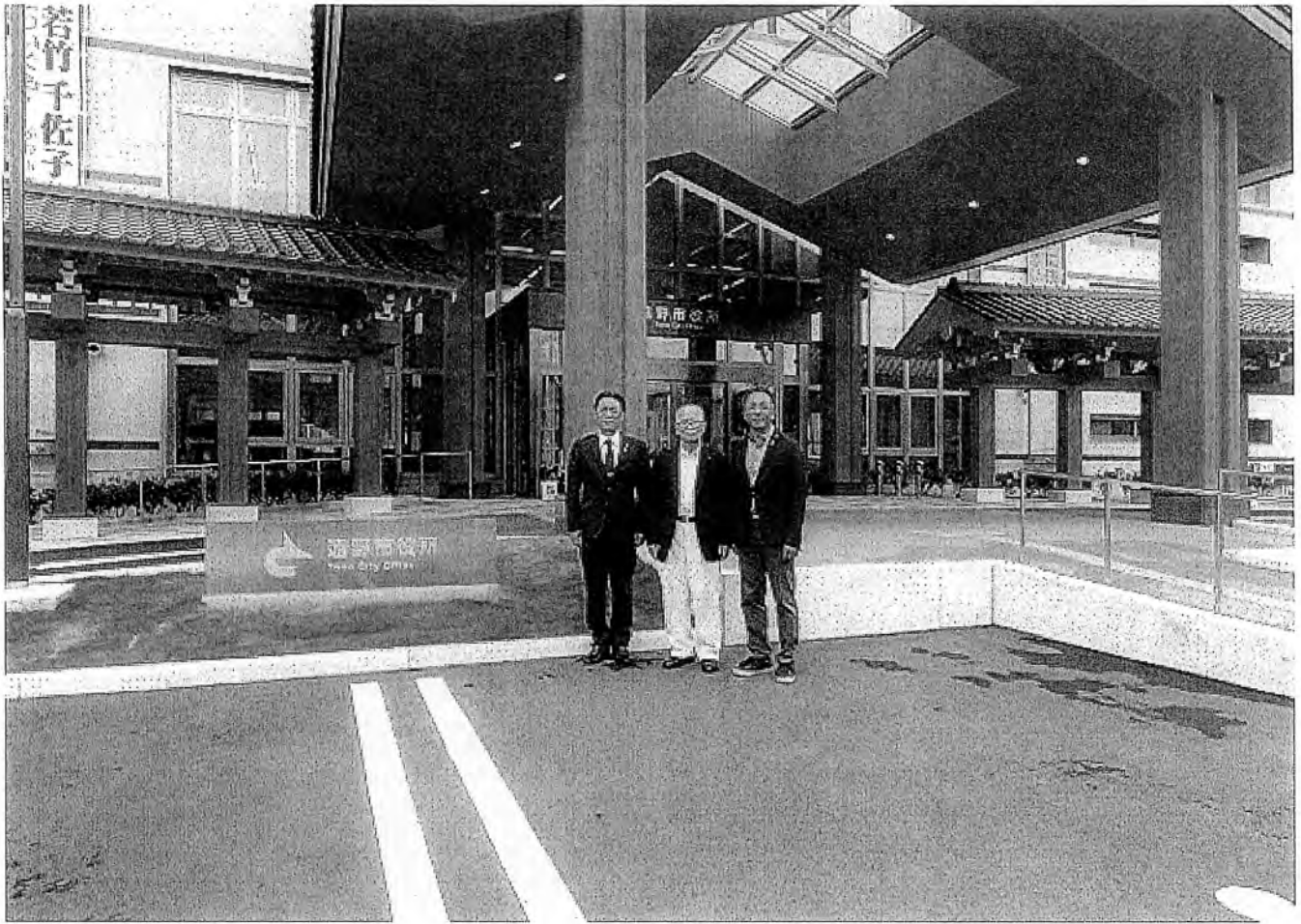
そこで、遠野市では、地域おこし協力隊制度を活用して起業家人材を誘致し、市内の団体や企業等との連携によって、地域資源を活用した起業家を育成する為に、遠野ローカルベンチャー事業（起業型地域おこし協力隊）の導入に向けた取組みを開始した。まず、遠野ローカルベンチャースクールの事業化について、遠野市と林篤志氏が平成27年11月に検討を開始し、平成28年3月に予算措置、事業化し、同年5月に林氏が市内に現地法人（（株）ネクストコモンズ）を設立し、（株）ネクストコモンズに委託して隊員を募集した。翌月6月には仮申込者487名、説明会参加者175名となり、7月に本申込者80名（履歴書・事業計画書等提出者）となり、8月に7プロジェクト、10名の隊員を決定した。9月に委嘱・活動開始となり（9月1日付けの委嘱は9名、1名は自己都合により辞退）、12月に中心市街地の空き店舗をリニューアルして、活動拠点の移住者等起業支援拠点施設となる（＝コモンズカフェ）を国の地方創生交付金を活用し開所した。また、平成29年3月に、追加採用者5名を決定し、翌月追加委嘱を行い、11月には隊員3名が共同で（株）遠野醸造（クラフトビールの製造、販売）を設立し、平成30年5月には、遠野醸造 TAPROOM がオープンし、新たに、追加採用者3名を決定した。これまでに17名の隊員を委嘱し、現在16名が隊員として活動中（退職した1名は市内の団体へ就職）とのこ

とである。

遠野ローカルベンチャー事業の事業目的は、・内発型、外発型の起業家育成・農業を基本に据えた6次産業の振興による市全体の総合産業の底上げ・観光と交流人口の拡大と首都圏からの移住・定住の促進とし、遠野ローカルベンチャー事業では、地域おこし協力隊等の意欲あるプレーヤー（起業を希望する若者）を首都圏から招致。新規起業を加速させ、農業参入、6次化を強力に後押ししている。

遠野ローカルベンチャー事業のリーディングプロジェクト①としてホップ生産者と生産量の減少に立ち向かう為にビールプロジェクトを立ち上げ、平成19年から遠野市と麒麟ビールが連携し、遠野産ホップや遠野の食材を発信するTK（遠野×麒麟）プロジェクトを発足させ、様々な取組みを展開している。中でも毎年8月に遠野ホップ収穫祭が開催されるが、2017年（昨年）は来場者、売上が前年比3割増となり年々来場者数も増加傾向にあるとのこと。特質すべきことは、市民、起業家、醸造所、企業、行政、観光客等がプラットフォームであり、チームであり、コミュニティであることで、一体的な取組みがまちの活性化を生み出していると感じる。リーディングプロジェクト②としては、発酵技術、文化を世界に向けて発信～どぶろく特区第2ステージ～として、発酵プロジェクトを立ち上げ、・醸造家、発酵技術者の育成・発酵技術の分析、開発・商品開発、プロモーション・ツーリズム事業の展開・発酵文化の世界発信に向けた取組みを推進している。

今回の行政調査では、実際に隊員の方から説明を受けながらコモンズカフェを現地視察させて頂き、隊員の方は首都圏からの移住者であるが、説明の中でも隊員の情熱が感じられ生き生きとしている姿が印象的であった。また、市の職員の方々のサポート体制もしっかりしているからこそ移住者の方々も慣れない土地でも、のびのびと生活できるのだと感じた。先に述べた人口減少社会からの課題、影響等は本市においても同じ課題となり得る訳だが、遠野市では、行政、企業等との連携は勿論の事だが、何よりも市の担当職員の方が情熱を持ってこの遠野ローカルベンチャー事業を推進しているからこそ、移住、定住者も増加し、市の経済活性化にも繋がっている事だと感じた。またその地域にある宝を磨き、独自の宝を活かしながら地域活性化に繋げる事が本市においても非常に重要なことだと感じた。





遠野市産業部次長兼六次産業室長

あ べ      じゅん ろう  
阿 部      順 郎

〒028-0592 岩手県遠野市中央通り9番1号  
TEL 0198-62-2111(441) FAX 0198-60-1523  
Mail [REDACTED]

遠野市産業部 六次産業室

き く      ち      よ う      い ち      ろ う  
主 任 菊 池 陽 一 郎

〒028-0592 岩手県遠野市中央通り9-1  
電話:0198-62-2111(内線442) FAX:0198-60-1523  
E-mail: [REDACTED]

いつかきた町

ふるさとに出会う町

またいつかくる町

永遠の日本のふるさと

遠野

遠野市 議会事務局

とおる  
事務局長 菊 池 享



カリンちゃん

〒028-0592  
岩手県遠野市中央通り9番1号 遠野市役所本庁舎  
TEL 0198-62-2111 (内170)  
FAX 0198-66-3021  
Eメール [REDACTED]  
遠野市HP <http://www.city.tono.iwate.jp/>



進化し続ける“まちづくり”地域総合力で元気再生

# 遠野市における移住・起業の 取組について 遠野ローカルベンチャー事業

～ 郡山市議会様行政視察資料 ～

平成30年7月6日

岩手県遠野市  
産業部六次産業室

永遠の日本のふるさと遠野



## 報告書

### 遠野市：遠野型ふるさとテレワーク推進事業について

遠野型ふるさとテレワーク推進事業を展開するにあたり、拠点施設となる、遠野みらい創りカレッジにて説明を受けた。まず、この「遠野みらい創りカレッジ」とは、遠野市と富士ゼロックス株式会社が協働で行う地域振興のための活動で、遠野はもとより全国共通の地域課題解決と地方創生へつながる新たな価値づくり・仕組みづくりを目指している施設で、中学校再編により平成25年3月に閉校（最終生徒数49名）となった中学校校舎（旧土淵中学校）を最小限の改修によって研修施設と活用し、さまざまな立場の人や知恵が集う「場」を創出。地域資源を活用し地域住民と企業・団体、大学、自治体などの連携を促すプログラムの企画運営や活動支援を行っている。みらい創りカレッジは、企業・大学・自治体など様々な立場の人が地域に入り連携することでそれぞれの課題を発見し、成長支援のため知恵を出し合える場「ふれあうように学ぶ場」をコンセプトとして設立された。このカレッジを基点として遠野市全体の地域資源を活かしたプログラムの構築・実践に取り組んでおり、遠野の魅力を発信しながら、多主体の交流による研究・芸術・文化・産業などの分野における遠野の魅力発見と、まちづくりの潜在的な課題探索と解決手段の検討を目指している。主に社会人研修、小中高教育プログラム支援、大学フィールドワークなどのコーディネートや、地域人材・産業育成研修を中心とした各種プログラムの企画運営により、地域の未来をつくる人材育成を実践し、地域動向に応じプログラム構成を更新しながら事業展開している。運営体制は、平成26年4月8日に遠野市と富士ゼロックス株式会社両者によるカレッジ運営協定を締結、事業内容・経費負担・情報発信などに係る協力事項について確認し、平成28年4月8日には、より継続的な運営を目指し、事務局を一般社団法人として登記した。平成30年2月には、遠野市、（一財）遠野市教育文化振興財団、（株）遠野施設管理サービスと4者連携協定を締結。より弾力的な人材運用を可能にした。カレッジの利用者数だが、累計で平成26年度3,569人平成27年度5,327人平成28年度5,049人平成29年度7,355人となっており年々利用者数は増加傾向にある。そのみらい創りカレッジの中に、平成28年度から遠野型ふるさとテレワーク推進事業を導入した。事業概要として、・閉校した中学校（現在「遠野みらい創りカレッジ」を開校）を活用して、テレワークセンターを立上。・富士ゼロックス株式会社に貸与するサテライトオフィス及び起業家、フリーランサー向けのコワーキングスペースを整備する。・遠野みらい創りカレッジの産学官民のネットワーク（年間利用者約5千人）を活用し、テレワークをPR・体験させることにより、遠野市における継続的なふるさとテレワークの普及促進を図る。との内容で、平成29年12月末現在のテレワークセンターの利用実績は、サテライトオフィス（富士ゼロックスが利用）で平成28年度29年度とも移動

者（利用者）各2名となっており、内訳は移住1名・長期派遣1名となっている。コワーキングスペースの利用実績は、平成28年は2月に整備し、3月までの1ヶ月で6名。平成29年度4月から10月の移動者（利用者）は777名（視察・見学含む）となっており、累計で783名の利用者数。月平均利用人数は65人となっている。実際施設を視察し、行政と民間企業がしっかりと連携して目的が明確になっているからこそ、廃校の利活用からICTを活用した地域振興に繋がっていると感じた。本市も様々な企業、大学等と様々な内容で協定を締結しているが、重要なのは両者が共通認識のもと目的を明確にし実践していくことが大切だと感じ、その実践により地方創生や地域振興、地域発展へと繋がることだと強く感じた。



マネージャー

一般社団法人 遠野みらい創りカレッジ  
〒028-0555 岩手県遠野市土淵町土淵4-21-6

TEL:0198-60-1276

FAX:0198-60-1279

携帯:

ふれあうように学ぶ場

遠野みらい創りカレッジ



復興推進室

みらい創り支援グループ

富士ゼロックス株式会社

〒028-0555 岩手県遠野市土淵町土淵4-21-6

遠野みらい創りカレッジ土淵校

E-mail:

Tel 0198-60-1276

Fax 0198-60-1279

FUJI XEROX 

# 遠野型ふるさとテレワーク推進事業の概要について



— 永遠の日本のふるさと「遠野」への人の流れを生み出す —

岩手県 遠野市

